

つながる力を、創り出す力に。



# 2026年3月期 第2四半期（中間期）決算説明資料

---

株式会社 高松コンストラクショングループ 証券コード：1762

2025年11月12日

# 目次

---

1. 2026年3月期 第2四半期（中間期）決算	2
2. 2026年3月期 業績予想・配当予想	21
3. トピックス	25

# 2026年3月期 第2四半期（中間期）決算

---

# 企業集団の状況

土木	建築	不動産	主要営業エリア
	高松建設		東京・大阪・名古屋
	高松テクノサービス		大阪・東京
		高松エステート	大阪・東京
	住之江工芸		国内（全国）
	金剛組		大阪・東京
	中村社寺		名古屋
	タカマツビルド		東京・神奈川
	大昭工業		大阪
青木あすなろ建設			国内（全国）
島田組			国内（全国）
みらい建設工業			国内（全国）
青木マリーン			国内（全国）
	エムズ		首都圏
東興ジオテック			国内（全国）
		タカマツハウス	東京・神奈川・埼玉
		タカマツハウス不動産	東京・神奈川
		タカマツハウス関西	大阪・兵庫
		高松都市開発	東京・大阪
		高松CG USA	米国
高松コンストラクショングループ（純粋持株会社）			

# 2026年3月期 第2四半期 業績推移

(億円)

項目	2023/3期 2Q	2024/3期 2Q	2025/3期 2Q	2026/3期 2Q	増減率
受注高	1,778	1,635	1,927	1,891	△1.9%
売上高	1,288	1,432	1,621	1,709	+5.4%
売上総利益	176	192	191	257	+35.0%
売上総利益率	13.7%	13.4%	11.8%	15.1%	+3.3pt
営業利益	28	33	25	78	+204.4%
営業利益率	2.2%	2.3%	1.6%	4.6%	+3.0pt
経常利益	29	34	21	77	+262.3%
経常利益率	2.3%	2.4%	1.3%	4.5%	+3.2pt
親会社株主帰属 中間純利益	13	11	5	44	+746.0%
中間純利益率	1.1%	0.8%	0.3%	2.6%	+2.3pt

# 2026年3月期 第2四半期および通期業績のポイント

## 受注高

- 連結受注高は前年同期比△1.9%。ほぼ計画通りの進捗。
- 高松建設は前年同期比+16.2%と大幅に増加。ただし、今年7月に設立した高松都市開発へ分譲事業を移管したことに伴うグループ内取引分約200億円が含まれており、連結消去される。連結消去分を除いた受注高はやや勢いがないように見えるが、これは選別受注の強化によるもの。下半期に受注予定の案件もあり、通期計画の達成に問題はない。
- 青木あすなろ建設は建築については計画通りの進捗、土木は計画未達。  
ただし、下半期に主に建築で受注を予定している案件もあるため、通期計画の達成に問題はない。
- みらい建設工業は計画を上回る進捗。
- 東興ジオテックは計画未達。下半期に挽回をはかる。
- タカマツハウスは計画を上回る進捗。

## 売上高

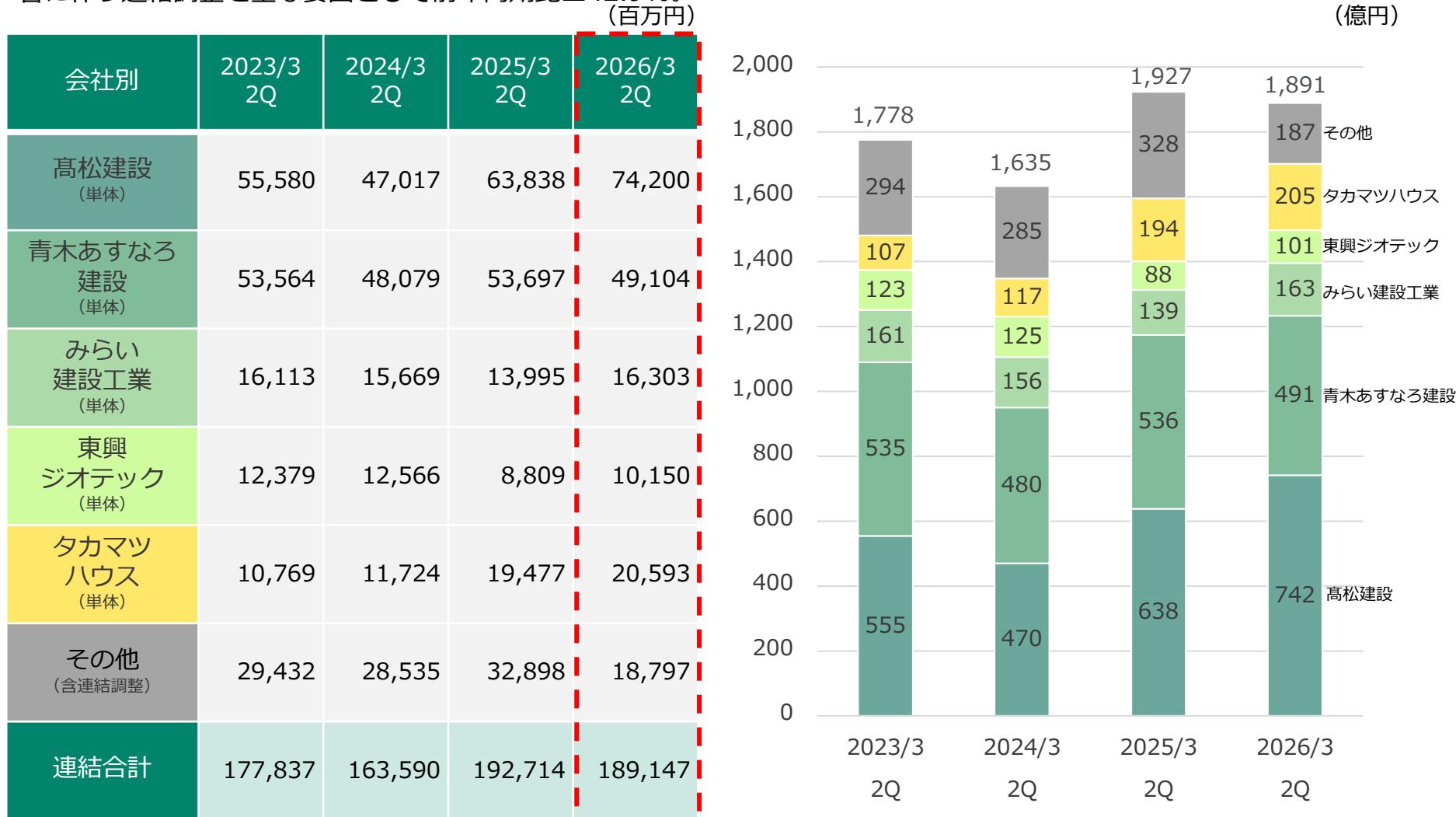
- 連結売上高は前年同期比+5.4%。
- 高松建設は前年同期比+26.9%と大幅増。計画を上回る進捗。前期は例年と比べ期初の着工現場数が少なかったが、本期は期初から順調に着工が進んでいる。
- 青木あすなろ建設は前年同期比微減ながら、計画を上回る進捗。
- みらい建設工業は大型案件の着工遅れや工事進捗の遅れにより、前年同期比減、計画未達。ただし、足元では工事進捗が改善しており、上半期に受注した複数の案件が本期売上に寄与する見込みで、通期計画の達成に問題はない。
- 東興ジオテックは上半期の受注不足により前年同期比、計画比ともに未達。  
通期計画を263億円→240億円に修正。
- タカマツハウスは販売が好調で、前年同期比+12.9%。計画を上回る進捗。

## 営業利益

- 連結営業利益は前年同期比約3倍。
- 高松建設は売上増加と売上総利益率の改善により、前年同期比約4.8倍と大幅増。上半期は販管費も計画比で抑制できたため、計画を上回る進捗。通期計画61億円→73億円に修正。
- 青木あすなろ建設は約21億円の黒字。不採算工事の影響で赤字だった前年同期から改善。通期計画の達成に問題はない。
- みらい建設工業は前年同期比微増、計画を上回る進捗。
- 東興ジオテックは前年同期比減、計画未達。受注の低調により売上高が不足し、通期計画を21億円→15億円に修正。
- タカマツハウスは前年同期比増、計画を上回る進捗。滞留在庫の整理が進み、新規在庫の売れ行きも好調。採算改善が進み、計画達成の見通し。

# 中核事業会社別 受注高

- ◆ 高松建設は前年同期比+16.2%（連結調整前／詳細次ページ）。青木あすなろ建設は前年同期比△8.6%。みらい建設工業は第1四半期からの積み上げと大型案件受注が複数あり前年同期比+16.5%。東興ジオテックは前年同期比+15.2%。タカマツハウスは前年同期比+5.7%。その他中核5社以外のグループ会社は、高松建設から高松都市開発への分譲事業移管に伴う連結調整を主な要因として前年同期比△42.9%。



※個社の数値はグループ会社間取引を含む。

©2025 TAKAMATSU CONSTRUCTION GROUP CO., LTD.

# 高松建設 セグメント別受注高

- ◆ 共同住宅は、大阪で前年同期比約60億円、東京で前年同期比約51億円増加し、高松建設全体で前年同期比約112億円増加した。ただし、本受注高には、高松建設の分譲事業を7月に設立した高松都市開発へ移管したことに伴い、高松建設と高松都市開発間の受発注として、大阪約69億円、東京約131億円、計約200億円の分譲住宅受注高が第2四半期より含まれる。グループ会社間取引となるため、グループ連結合計受注高は連結調整による消去がなされる。今後移管された案件については、分譲住宅の売却が済んだ時点で高松都市開発の受注高およびグループ連結の受注高として計上される。
- ◆ 一般建築は、東京で前年同期比約56億円増加したものの、大阪で前年同期比約76億円減少し、高松建設全体では約19億円の減少となった。
- ◆ 不動産は前年同期比約10億円の増加。

セグメント別 受注高 (百万円)

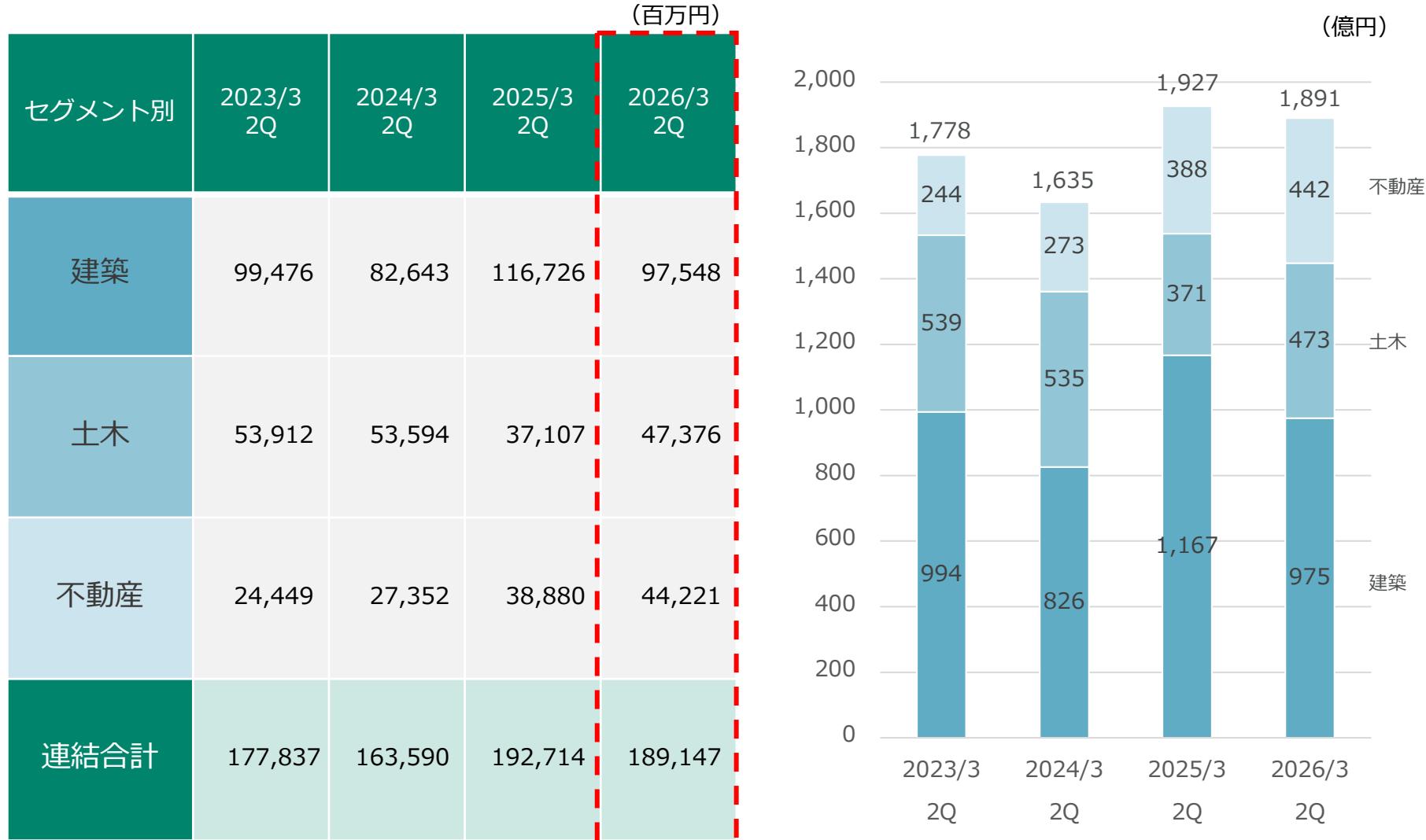
		大阪				東京			
		2025/3 2Q	構成比	2026/3 2Q	構成比	2025/3 2Q	構成比	2026/3 2Q	構成比
建築	共同住宅	4,669	19.2%	10,753	44.8%	23,627	59.7%	28,763	57.3%
	一般建築	18,270	75.2%	10,643	44.3%	14,654	37.0%	20,341	40.5%
不動産		1,345	5.5%	2,602	10.8%	1,273	3.2%	1,098	2.2%
合計		24,284	100%	23,998	100%	39,554	100%	50,202	100%

※数値はグループ会社間取引を含む。

※構成比は小数点以下第二位四捨五入

# セグメント別 受注高

◆ 建築は高松建設（連結調整後）と青木あすなろ建設で減少し前年同期比△16.4%と大幅減。土木は主に青木あすなろ建設とみらい建設工業で増加し前年同期比+27.7%と大幅増。不動産は高松建設、タカマツハウス、高松工ステート、タカマツハウス関西で増加し、前年同期比+13.7%と大幅増。



# 中核事業会社別 次期繰越し

- ◆ 高松建設は受注高・売上高ともに大幅に増加し前年同期比+8.9%。青木あすなろ建設は建築で増加し全体で前年同期比+8.0%。みらい建設工業は受注高の増加および売上高の減少により前年同期比+29.8%と大幅増。東興ジオテックは受注高の増加および売上高の減少により前年同期比+17.5%。タカマツハウスは前年同期比+0.2%。高松都市開発の設立に伴い、主に受注高の連結調整額が増加し「その他（含連結調整）」は前年同期比△66.0%。連結合計は前年同期比+6.9%となった。  
(百万円)

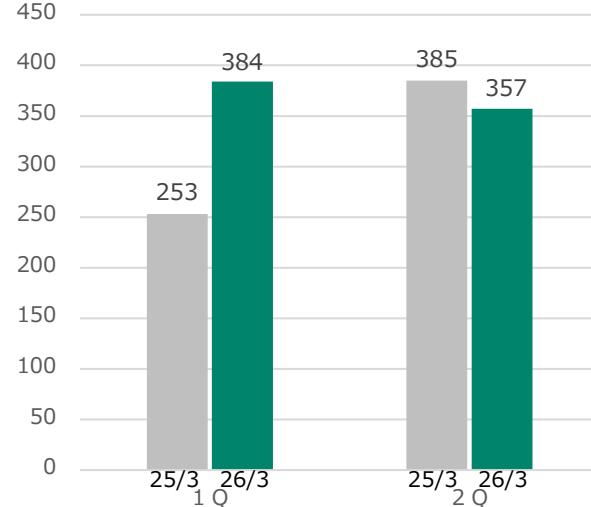
会社別		2025/3 2Q	2026/3 2Q	増減額	増減率
高松建設 (単体)		229,970	250,381	▲20,411	+8.9%
青木あすなろ建設 (単体)	建築	107,266	125,563	▲18,296	+17.1%
	土木	59,900	55,055	▲4,844	△8.1%
	合計	167,166	180,618	▲13,452	+8.0%
みらい建設工業 (単体)		32,705	42,441	▲9,736	+29.8%
東興ジオテック (単体)		11,627	13,661	▲2,034	+17.5%
タカマツハウス (単体)		5,341	5,352	▲11	+0.2%
その他 (含連結調整)		20,157	6,859	▲13,298	△66.0%
連結合計		466,966	499,312	▲32,346	+6.9%

※個社の数値はグループ会社間取引を含む。

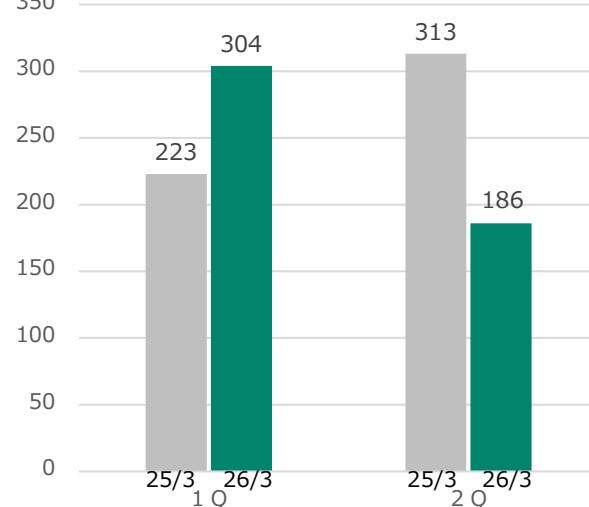
# 中核5社と連結合計の四半期ごとの受注高

(※ 数値は累計値ではなく四半期毎の金額)

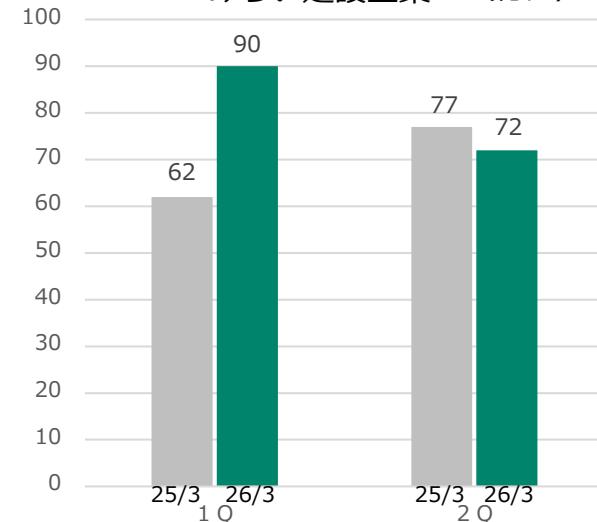
高松建設



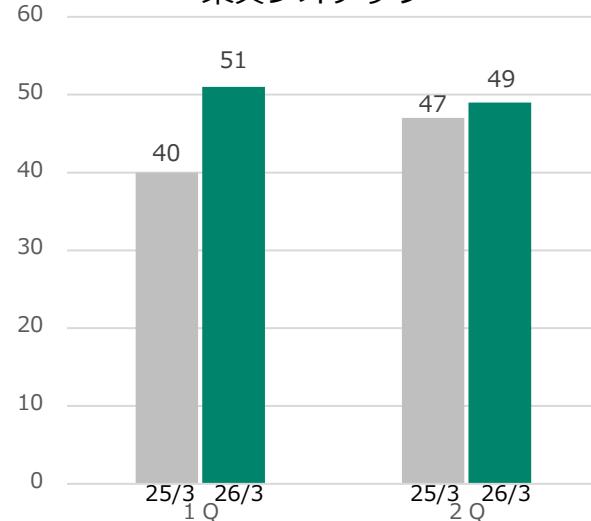
青木あすなろ建設



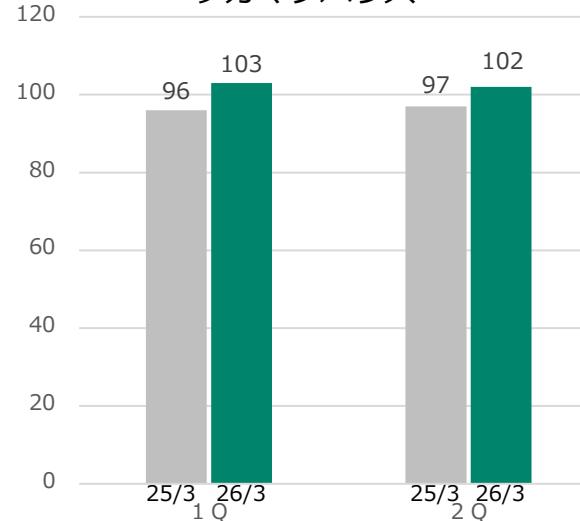
みらい建設工業 (億円)



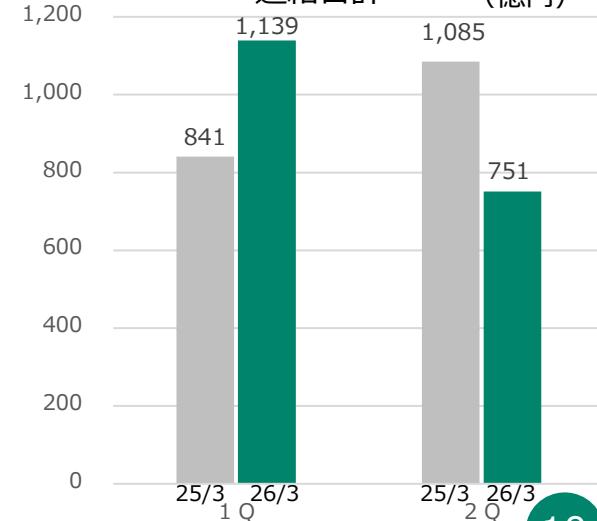
東興ジオテック



タカマツハウス



連結合計

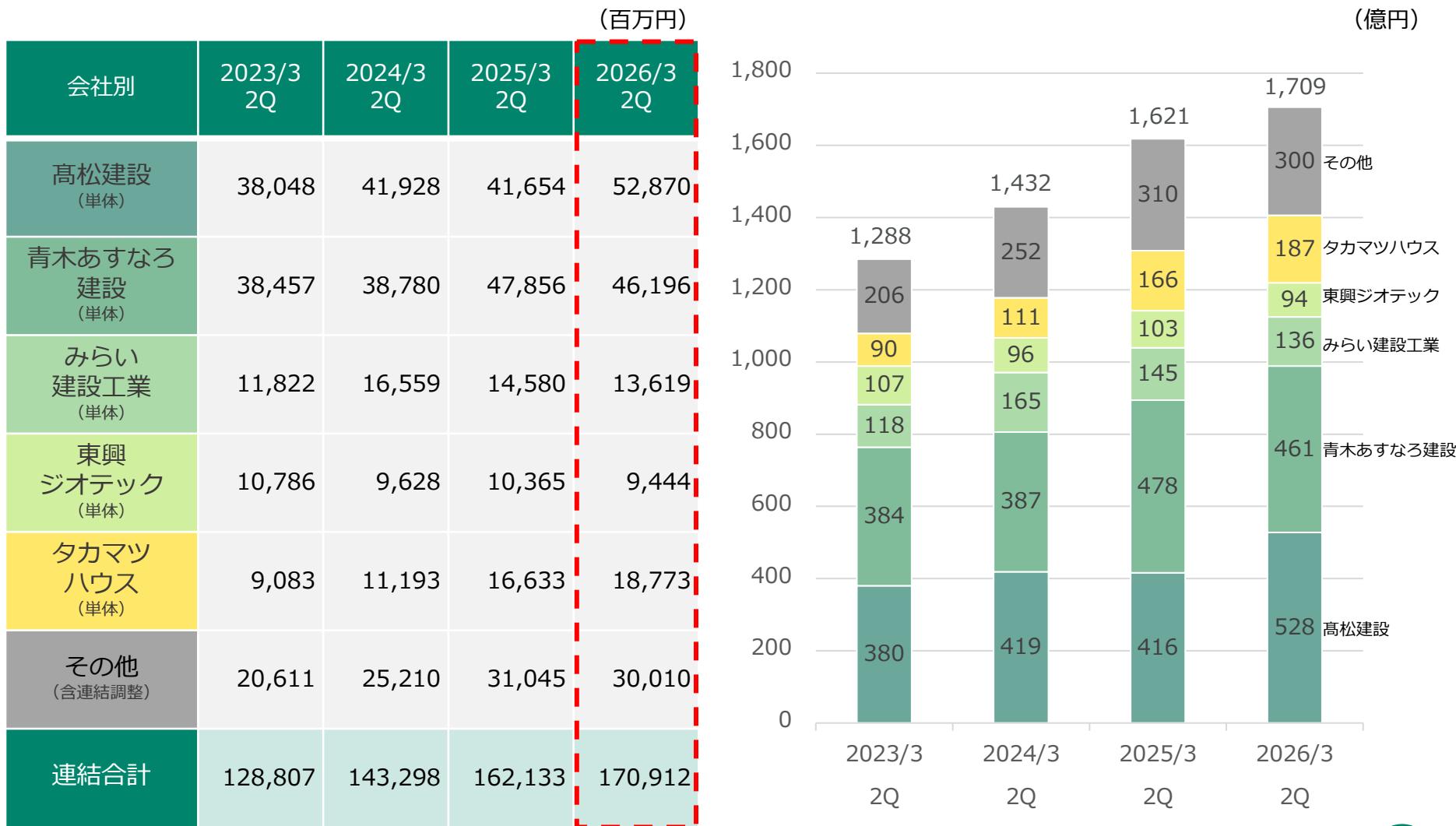


※個社の数値はグループ会社間取引を含む。

©2025 TAKAMATSU CONSTRUCTION GROUP CO., LTD.

# 中核事業会社別 売上高

- ◆ 高松建設は繰越工事が順調に進捗し前年同期比+26.9%と大幅増。青木あすなろ建設は前年同期比△3.5%。みらい建設工業は前年同期比△6.6%。東興ジオテックは前年同期比△8.9%。タカマツハウスは販売好調により前年同期比+12.9%。その他中核5社以外のグループ会社は前年同期比△3.3%。

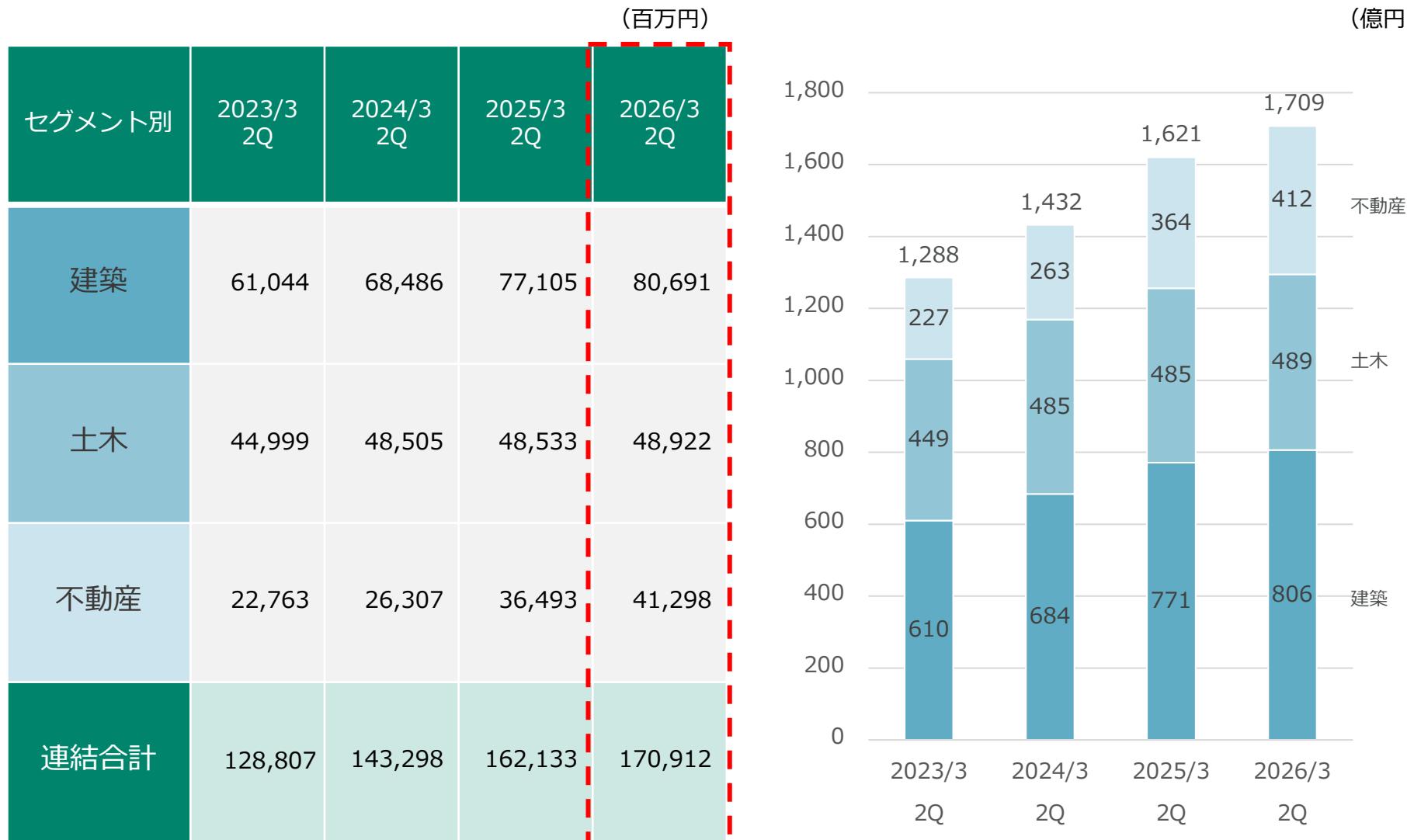


※個社の数値はグループ会社間取引を含む。

©2025 TAKAMATSU CONSTRUCTION GROUP CO., LTD.

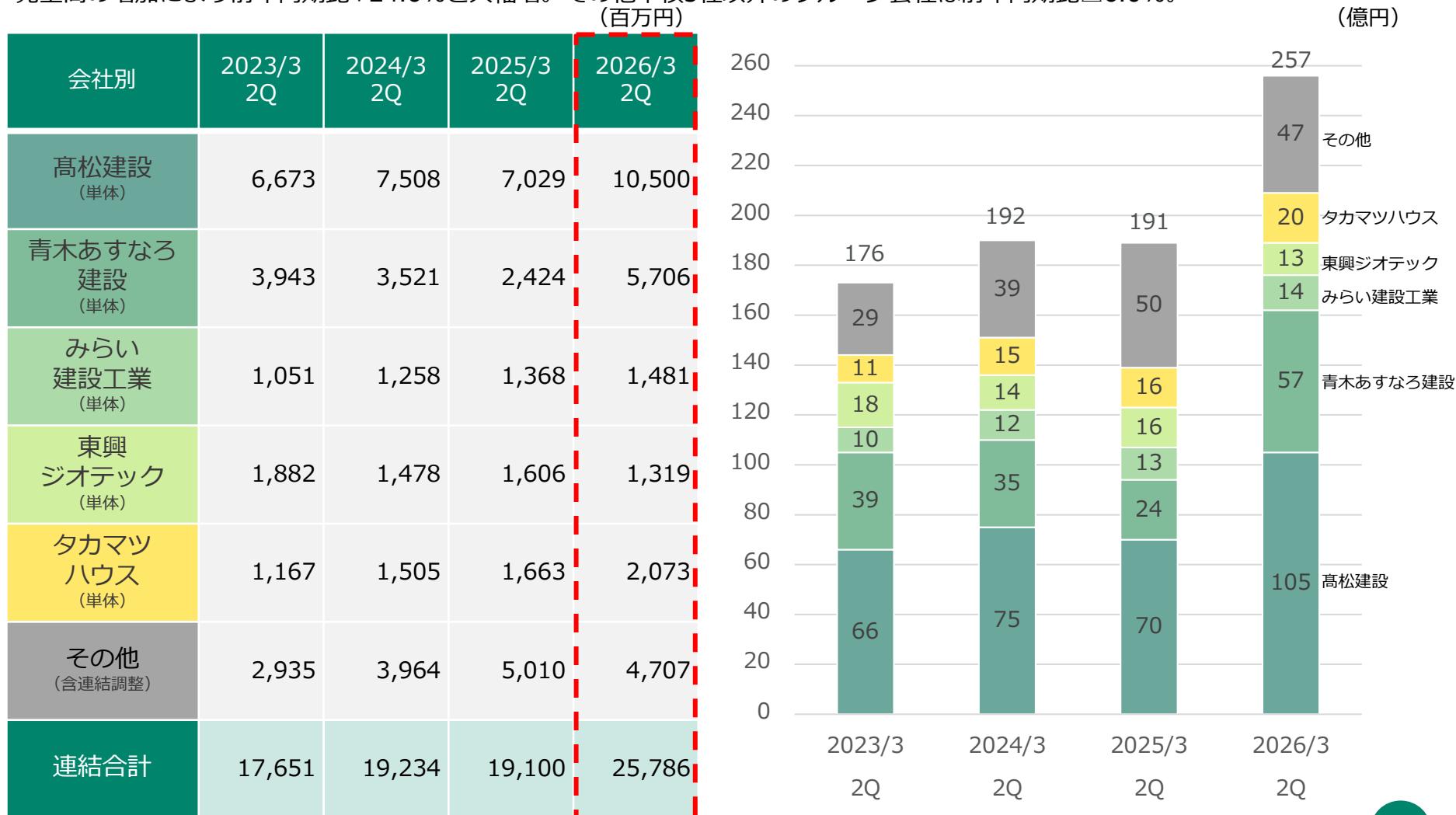
# セグメント別 売上高

◆ 建築は前年同期比+4.7%。土木は前年同期比+0.8%。不動産は主にタカマツハウスで増加し前年同期比+13.2%。



# 中核事業会社別 売上総利益

◆ 高松建設は売上高の増加および売上総利益率の上昇により前年同期比+49.4%と大幅増。青木あすなろ建設は建築で不採算案件のあった前年同期からの反動増、土木で好採算案件があったことから、売上高は前年同期比減も売上総利益額は前年同期比約2.3倍と大幅増。みらい建設工業は竣工時に採算改善した案件があったことから、売上高は前年同期比減も売上総利益額は増加し前年同期比+8.2%。東興ジオテックは売上高の減少と採算悪化した案件が複数あったことから前年同期比△17.8%と大幅減。タカマツハウスは売上高の増加により前年同期比+24.6%と大幅増。その他中核5社以外のグループ会社は前年同期比△6.0%。



※個社の数値はグループ会社間取引を含む。

©2025 TAKAMATSU CONSTRUCTION GROUP CO., LTD.

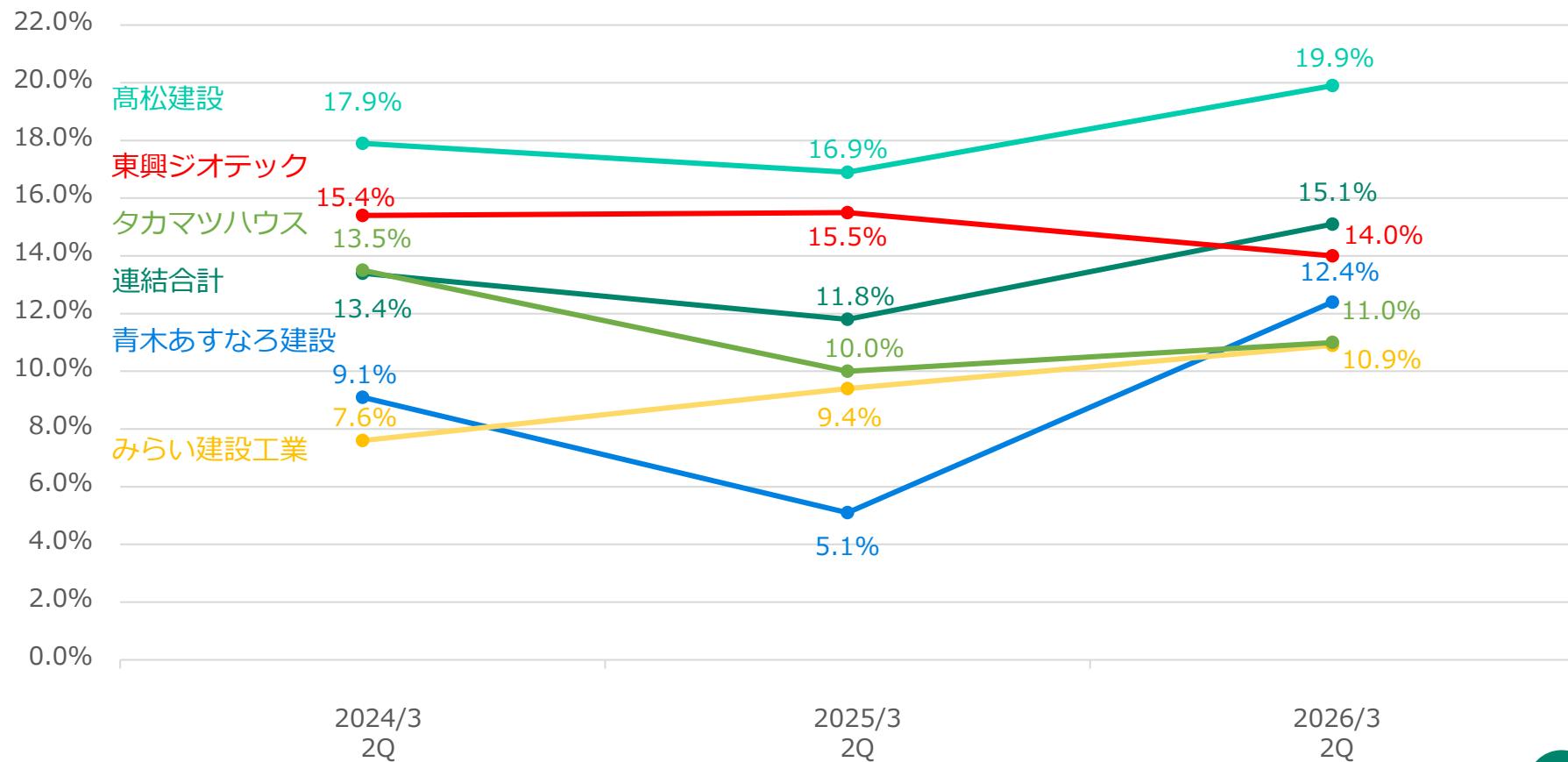
# セグメント別 売上総利益

◆ 建築は高松建設と青木あすなろ建設で増加し前年同期比+60.8%と大幅増。土木は主に青木あすなろ建設で増加し前年同期比+26.3%と大幅増。不動産は前年同期比+0.7%。



# 連結合計と中核5社の売上総利益率

- ◆ 高松建設は売上高および売上総利益額の増加により前年同期比+3.0ptと大幅に上昇。
- ◆ 青木あすなろ建設は売上高は減少したものの売上総利益額が大幅に増加し前年同期比+7.3ptと大幅に上昇。
- ◆ みらい建設工業は売上高は減少したものの売上総利益額が増加し前年同期比+1.5pt。
- ◆ 東興ジオテックは売上高および売上総利益額の減少により前年同期比△1.5pt。
- ◆ タカマツハウスは売上高および売上総利益額の増加により前年同期比+1.0pt。
- ◆ 連結合計で前年同期比+3.3ptと大幅に上昇した。



※個社の数値はグループ会社間取引を含む。

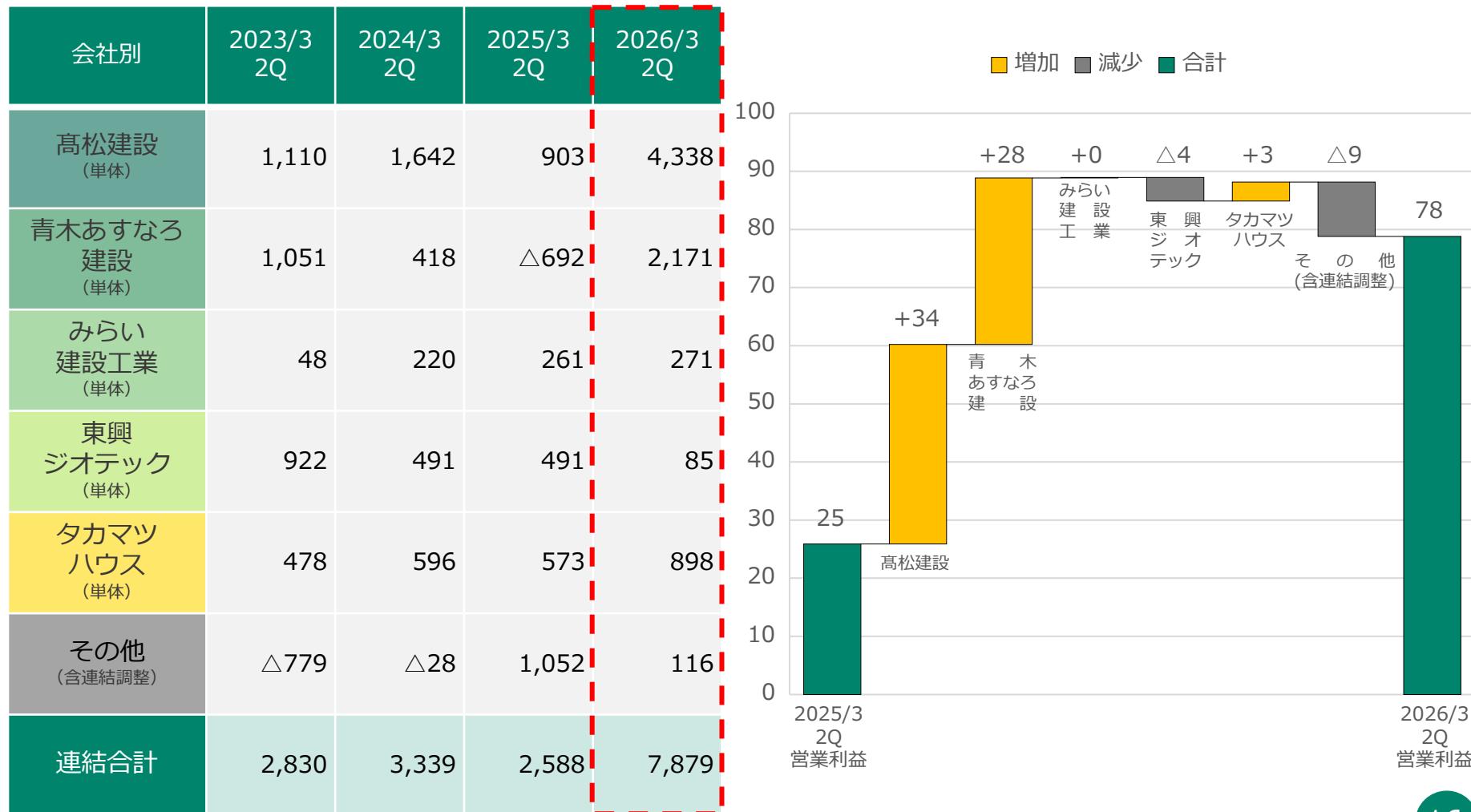
©2025 TAKAMATSU CONSTRUCTION GROUP CO., LTD.

# 中核事業会社別 営業利益

- ◆ 高松建設は売上高・売上総利益額の増加、売上総利益率の上昇により前年同期比約4.8倍と大幅増。青木あすなろ建設は売上高は減少したものの売上総利益額は増加し、前年同期の営業赤字から約21億円の営業黒字となった。みらい建設工業は売上高は減少したものの売上総利益額は増加し前年同期比+3.8%。東興ジオテックは売上高・売上総利益額の減少、売上総利益率の低下により前年同期比△82.6%と大幅減。タカマツハウスは売上高・売上総利益額の増加により前年同期比+56.6%と大幅増。その他中核5社以外のグループ会社は前年同期比△89.0%と大幅減。

(百万円)

(億円)

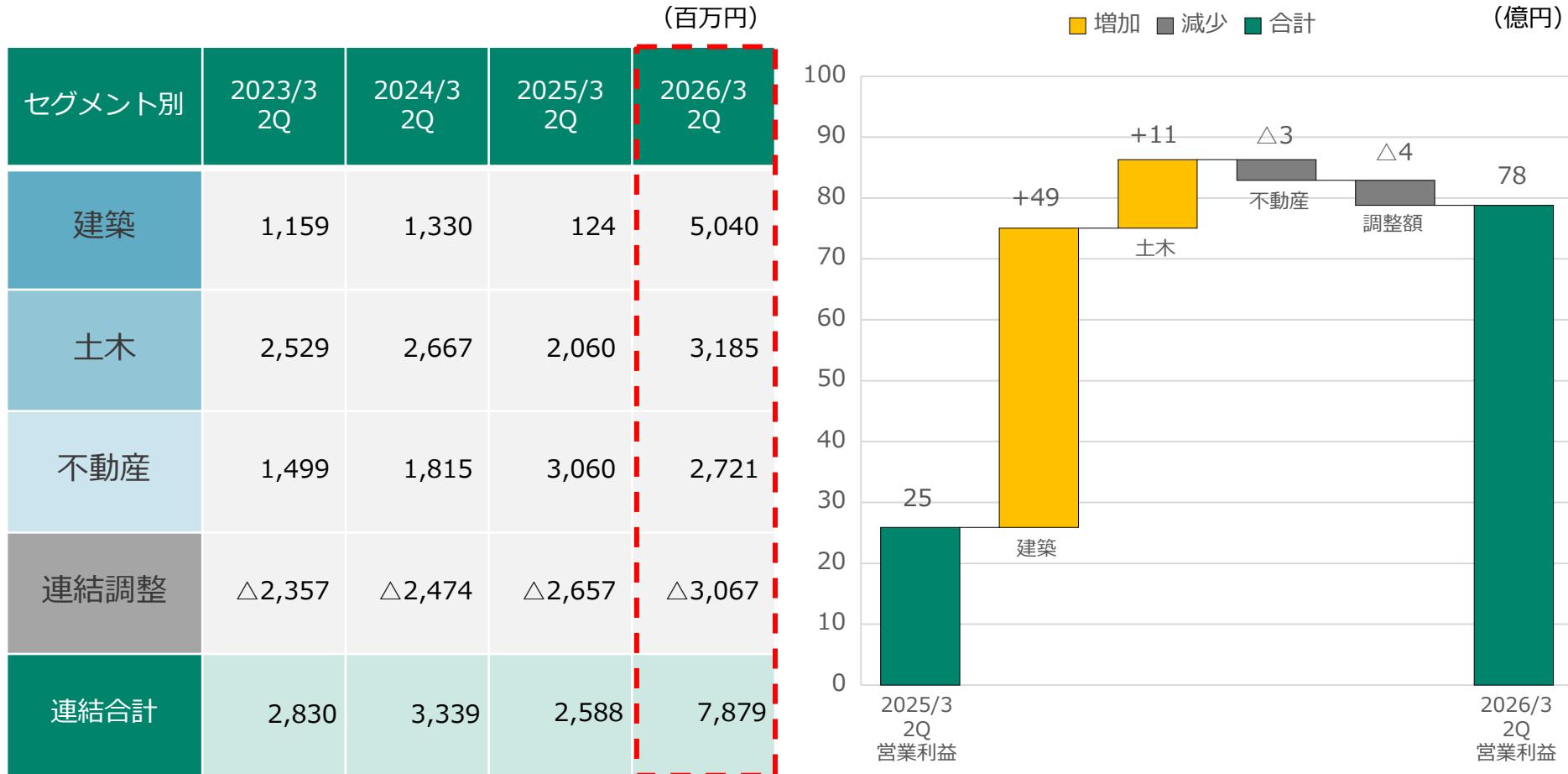


\*個社の数値はグループ会社間取引を含む。

©2025 TAKAMATSU CONSTRUCTION GROUP CO., LTD.

# セグメント別 営業利益

- ◆ 建築は高松建設、青木あすなろ建設で大幅に増加し前年同期比約40.4倍と大幅増。土木は青木あすなろ建設で増加し前年同期比+54.6%と大幅増。不動産は△11.1%と減少。

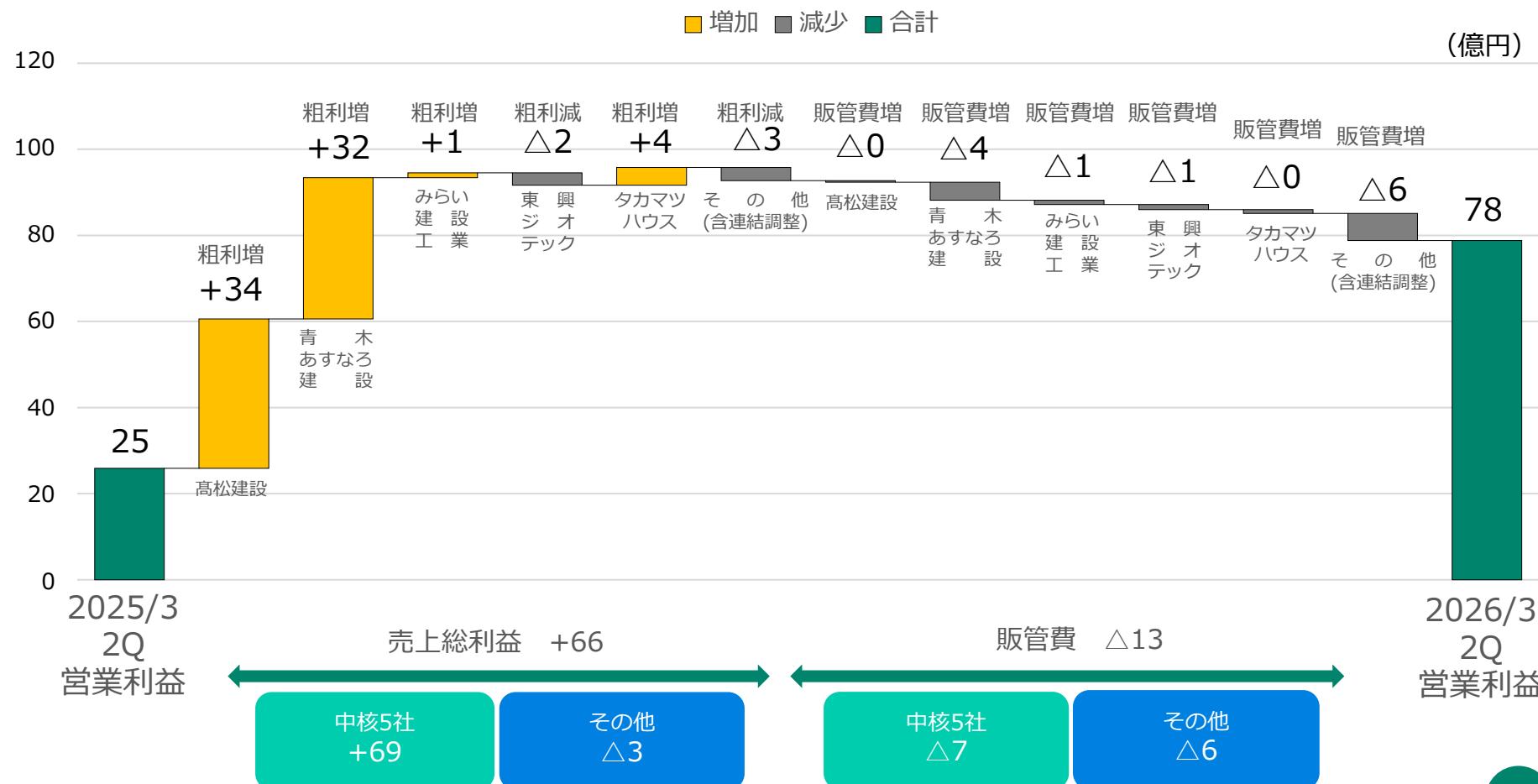


※各セグメントの数値はグループ会社間取引を含む。

# 売上総利益・販管費 営業利益増減分析

- ◆ 売上総利益は、主に東興ジオテックで減少したものの高松建設と青木あすなろ建設で大幅に増加し、前年同期比約66億円の大幅増となった。
- ◆ 販管費は、主に青木あすなろ建設とその他中核5社以外のグループ会社のうち主に当社高松コンストラクショングループで増加し、前年同期比約13億円の増加。
- ◆ 営業利益は連結で約52億円の増加となった。

## 営業利益増減分析

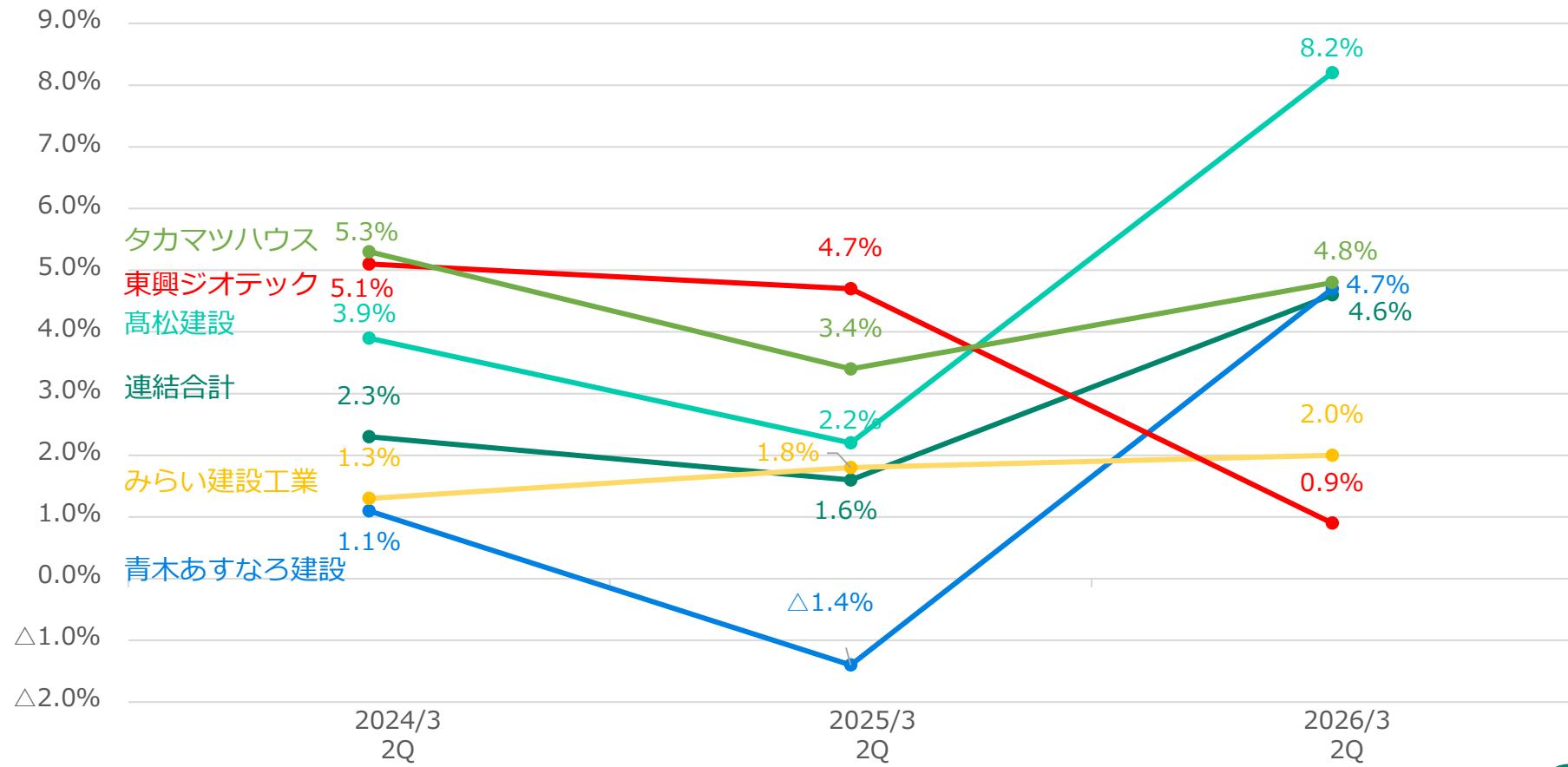


※個社の数値はグループ会社間取引を含む。

©2025 TAKAMATSU CONSTRUCTION GROUP CO., LTD.

# 連結合計と中核5社の営業利益率

- ◆ 高松建設は売上総利益率の上昇により前年同期比+6.0ptと大幅に上昇。
- ◆ 青木あすなろ建設は前年同期の営業赤字から回復し、前年同期比+6.1ptと大幅に上昇。
- ◆ みらい建設工業は前年同期比+0.2pt。
- ◆ 東興ジオテックは売上総利益率の低下により、前年同期比△3.8ptと大幅に低下。
- ◆ タカマツハウスは売上総利益率の上昇により前年同期比+1.4pt。
- ◆ 連結合計で前年同期比+3.0ptと大幅に上昇した。



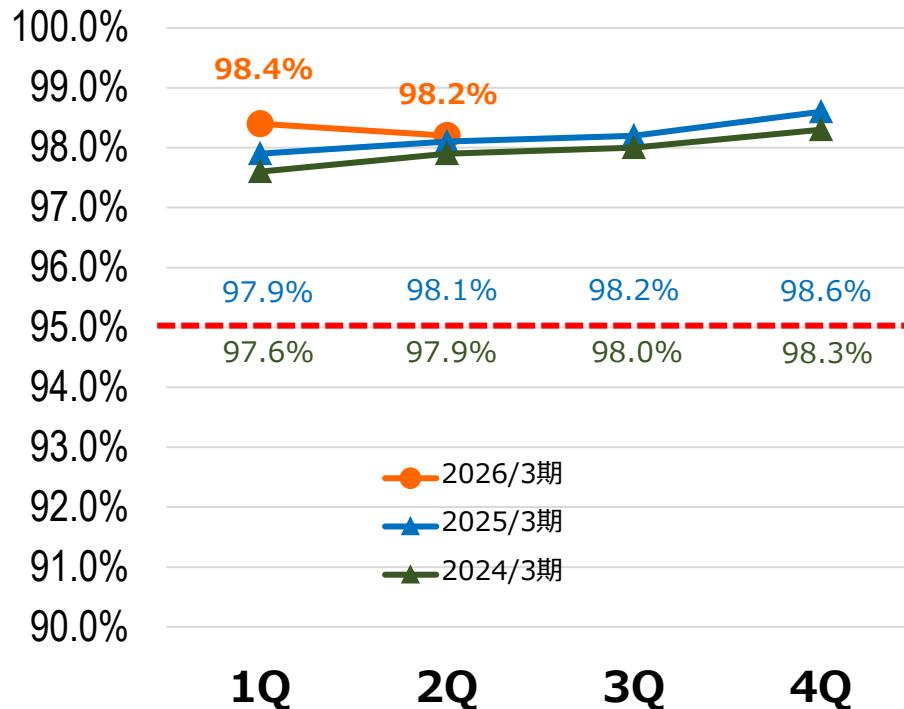
※個社の数値はグループ会社間取引を含む。

©2025 TAKAMATSU CONSTRUCTION GROUP CO., LTD.

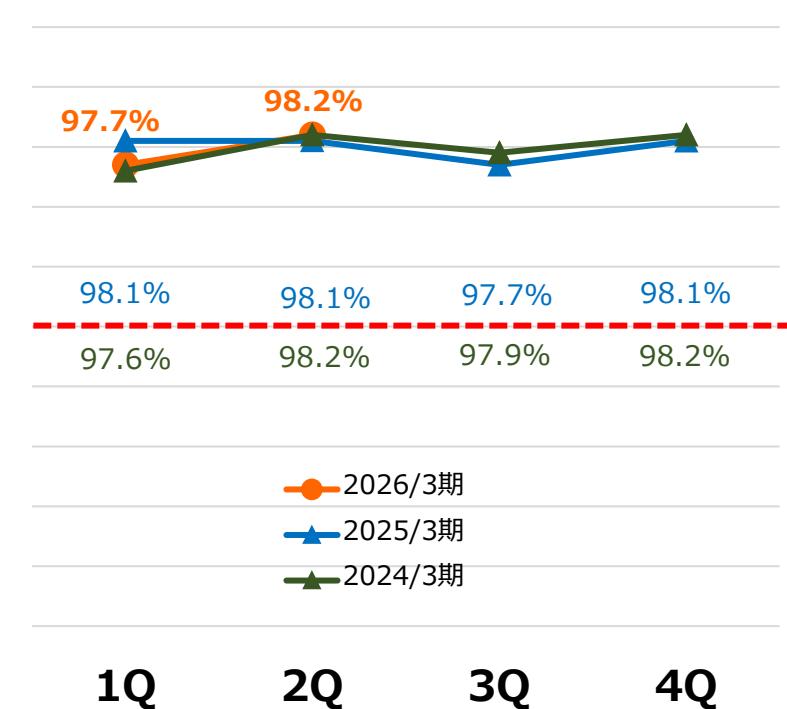
# 高松工ステートにおける高松建設施工物件の入居率

◆ 入居率は26/3月期第2四半期も95%以上を維持。

大阪・名古屋



東京



定義 :

「大阪・名古屋」 = 大阪府、京都府、兵庫県、名古屋市

「東京」 = 東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県

「入居率」 = 各四半期末時点の高松工ステートが管理している高松建設施工物件の入居戸数

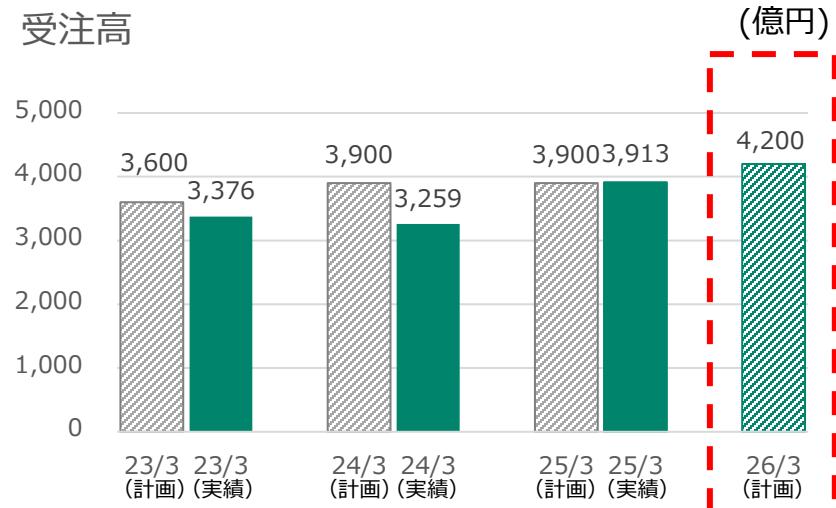
÷各四半期末時点の高松工ステートが管理している高松建設施工物件の総戸数

2026年3月期  
業績予想・配当予想

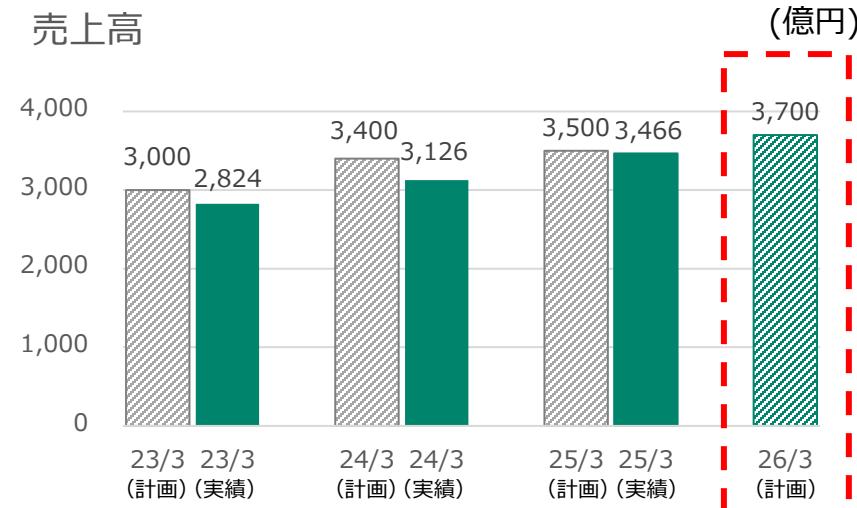
---

# 2026年3月期 業績予想

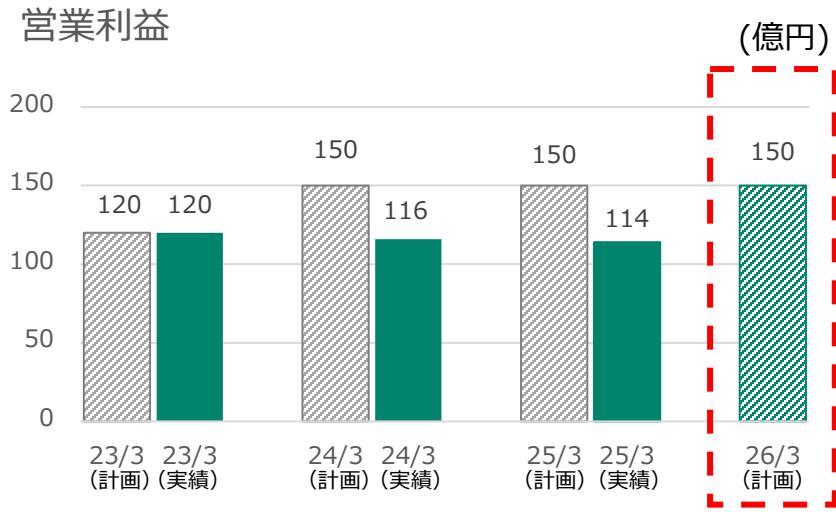
受注高



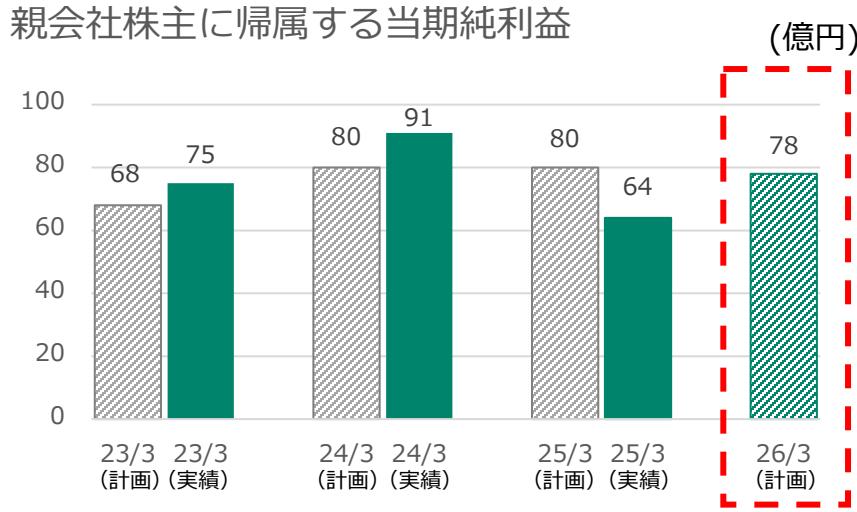
売上高



営業利益

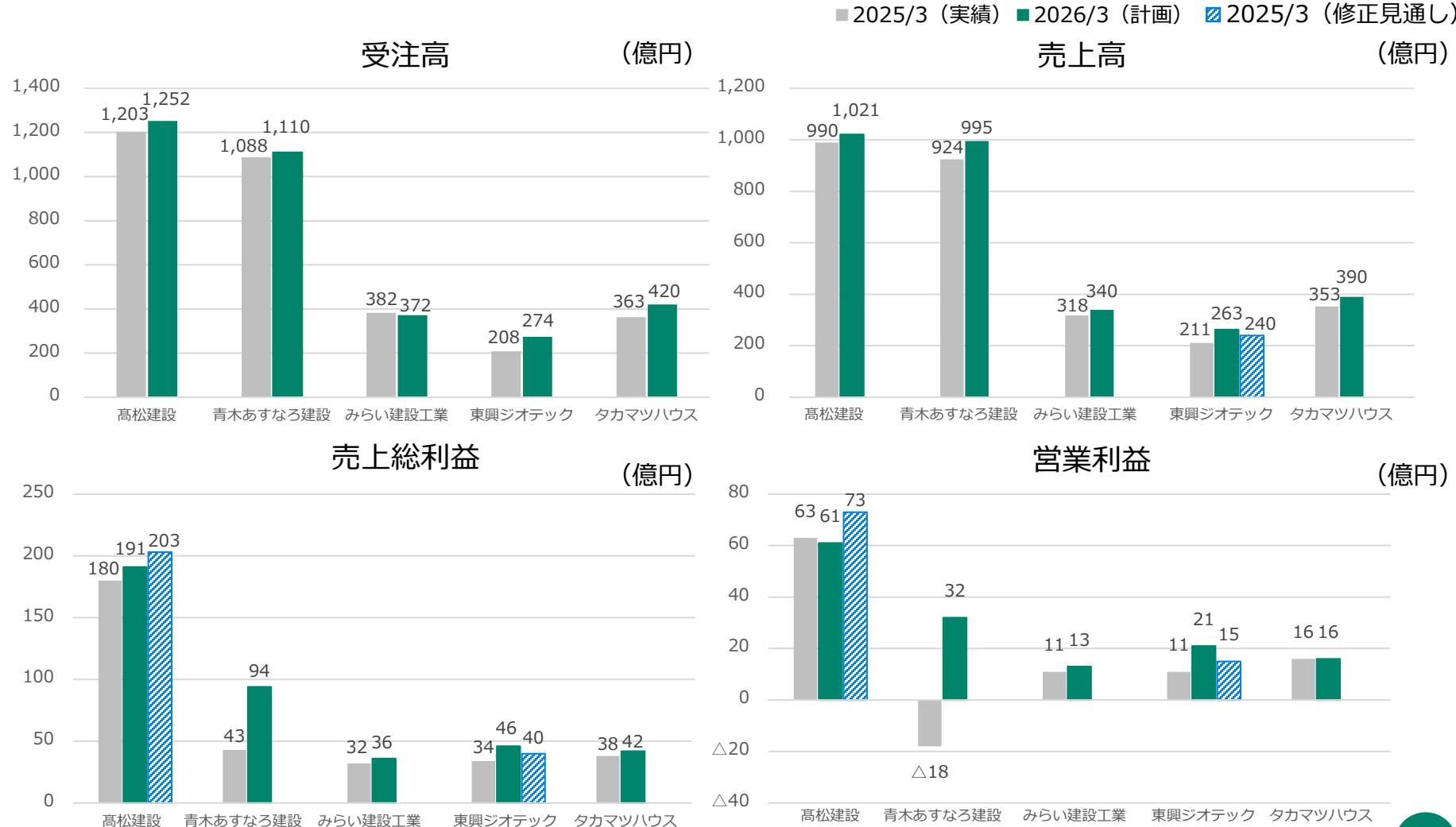


親会社株主に帰属する当期純利益



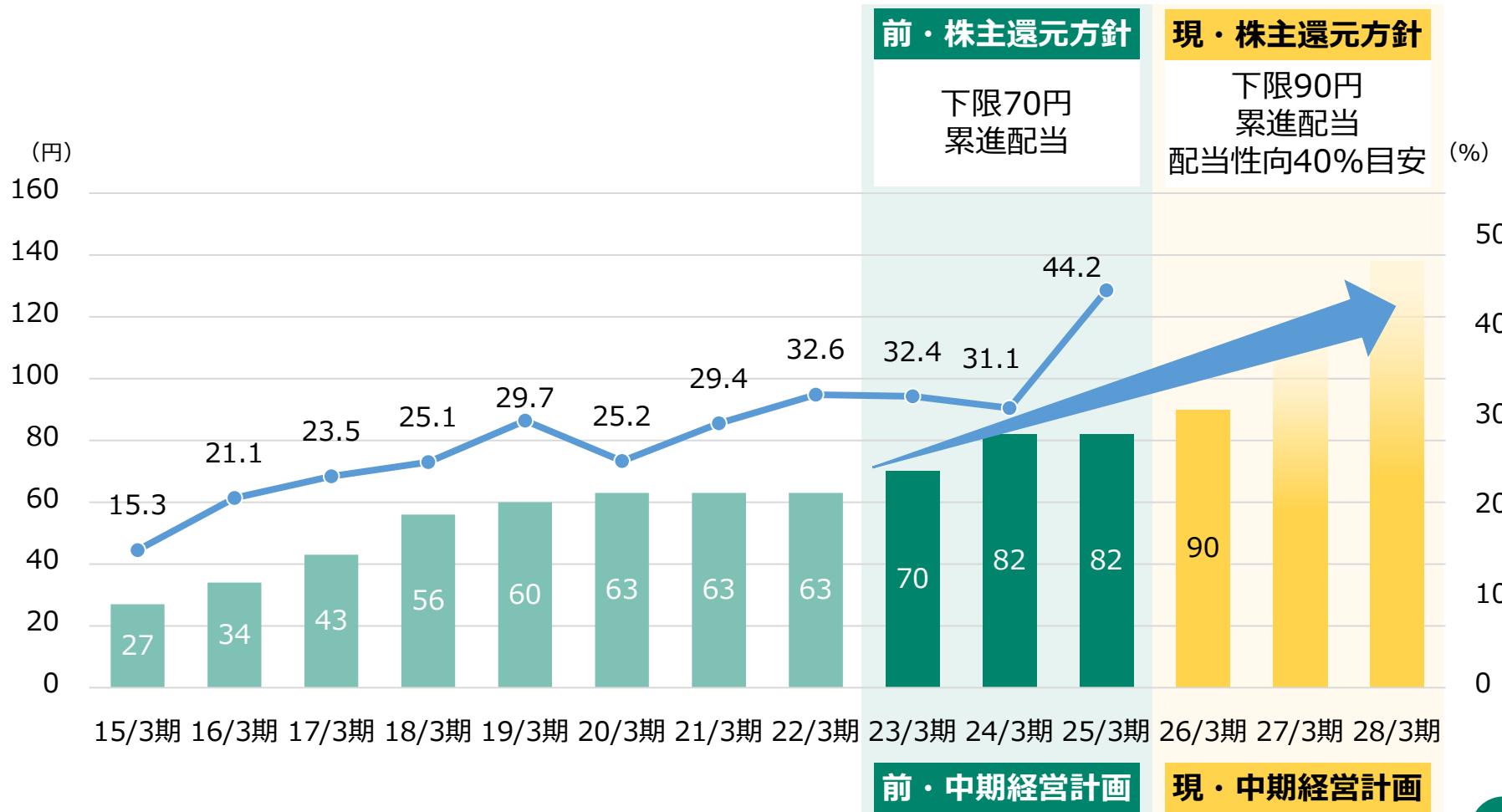
# 中核事業会社別2025年3月期実績・2026年3月期経営計画

- ◆ 2026年3月期の経営計画に対する事業会社の見通しを一部修正。高松建設は期初計画から売上総利益+11億円、営業利益+11億円とし、東興ジオテックは期初計画から売上高△22億円、売上総利益△6億円、営業利益△6億円とした。
- ◆ 連結合計の計画数字は、高松都市開発の設立など中核5社以外のグループ会社業績を鑑み、据え置きとした。



# 2026年3月期 配当予想（配当額・配当性向）

- ◆ 中期経営計画（2026年3月期～2028年3月期）の対象年度においては、累進配当を基本方針とし、年間の1株当たり配当金額の下限を90円に設定。
- ◆ 配当性向40%を目標とし、業績に連動した利益還元をおこなう。
- ◆ 2026年3月期の配当金額は1株当たり90円、配当性向は40.2%を予定。



# トピックス

---

# トピックス1

## ◆高松コンストラクショングループ

### ○パーサス制定

当社は10月に新たなグループパーサスおよびタグラインを制定いたしました。

パーサス「つながりで響きあい、オンリーワンの価値を生み出す」の中の「つながり」は、大切にしてきたグループ内/お客様/地域社会/歴史や伝統などとの様々なつながりを示し、「響きあい」は、そのつながりで相乗効果を生み出すこと、そして「オンリーワンの価値」とは、高松グループだからこそ生み出せる価値のことを表現しています。急速な技術革新やテクノロジーの進歩、多様な働き方やライフスタイルの広がりと、社会の多様な変化の中、専門企業集団である高松グループの幅広い強みを活かし、都市の仕組みそのものを設計して自ら構想し、新しい都市の価値を実装していく。そんな未来を切り拓く原動力のあるグループへ成長してまいります。

高松グループはこれからも、グループパーサスを共通の指針とし、つながることで未来の幸せを創造する、オンリーワンの存在であり続けます。

パーサス

つながりで響きあい、  
オンリーワンの価値を生み出す

タグライン

つながる力を、創り出す力に。



TakaMatsu  
GROUP

# トピックス2

## ◆高松コンストラクショングループ

### ○メジャーリーグLAドジャースの現地広告に掲出

認知度向上施策の一環として、大谷選手、山本選手、佐々木選手などが在籍する野球メジャーリーグのロサンゼルスドジャースの試合に、グループおよび事業会社の社名広告を掲出いたしました。

本事例のように、制定したパーカスやタグラインは、当社内外のステークホルダーへの認知度向上、ひいては採用や営業といった事業活動への寄与を見据え、今後も展開してまいります。

PNC・パーク球場



チェイスフィールド球場



つながる力を、創り出す力に。



本資料に記載されている将来に関する記述は、本資料作成日現在で入手可能な情報にもとづいて作成したものであり、実際の実績等は今後様々な要因によって異なる可能性があります。また、当資料は投資家判断の参考となる情報提供を目的とするものであり、当社株式の購入や売却を勧誘するものではありません。